



地域福祉を支える社会福祉施設のあり方とは

～「地域福祉における社会福祉施設のあり方セミナー」から～

県社協では平成19年度より、各施設関係部会・分科会の代表者による「地域福祉における社会福祉施設のあり方検討会」を設け、情報交換を行っています。

そこで出された各種別や地域におけるそれぞれの取り組みの報告会として、8月11日に群馬県社会福祉総合センターホールにおいて約90名の参加者を集め、本セミナーを開催しました。

①報告内容・各報告者について

〔障害〕渋川市における障害者施設のなんでも相談事業等の取り組み

障害者支援施設「誠光荘」
施設長 真下宗司氏

〔保育〕(前橋市における私立保育園長会の子育てひろば等の取り組み)

二之宮保育園園長
村中祐邦氏

〔老人〕(愛老園におけるネットワークの取り組み)

特別養護老人ホーム「愛老園」施設長 羽鳥 守氏

〔市町村社協〕(沼田市における認知症にやさしい地域ネットワーク等の取り組み)

沼田市社会福祉協議会
事務局長 木村敬史氏

②デイスカッション

◇コーディネーター…高崎経済

大学教授 熊澤利和氏

◇助言…群馬県社会福祉協議会
常務理事 深堀 充



○社会福祉法人は：

社会福祉法人は、戦後の社会福祉事業を中心的に担ってきた公共性、透明性の最も高い民間法人であり、非営利性を持った特別法人です。社会福祉事業の「純粋性」を保つてその「公共性」を高めるために設けられました。他の営利法人等とは違う固有の存在意義を今後より一層確立していくことが求められています。

○社会福祉施設の方向性は：

社会福祉法人が経営する社会福祉施設はこれからも地域において信頼され、利用者を始めとして地域の人々にとつてのかけがえない社会資源となるよう、地域福祉との関係性の中で今後の具体的な取り組み内容等を明確化する必要性があります。



福祉の人材を育てることも施設の地域貢献のひとつ
誠光荘 真下施設長

社会福祉施設はその利用者に対する支援により、地域貢献を行ってきたと思います。しかし、施設はその住所がある地域の住民でもありません。したがって、隣近所との関係性を持つことはとても重要なことだと思っています。

私たちは渋川広域地区の障害者施設の連携を図り、三十七の施設が加入するNPO法人を設立しました。我々の持つ専門性とネットワークを活かした「なんでも相談室事業」等を実施しています。相談件数はのべ四千件にもなりました。

また、社会福祉施設において重要な地域貢献の一つに福祉人材を育てることがあると思っています。つまり、施設で育った人材が他の職場に行ってもしっかりと活躍出来るような職員の発掘や教育を行うことこそ、施設が問われていることなのだと思います。